

属性No	A-2	地震名	安 政	市町村名	愛南町	整理No.	1/1
西 曆		和 曆		記載文献1	記載文献2	記載文献3	
年	月.日	年	月.日	平岩陽子修士論文, 1994	石塚淳一修士論文, 1995	自然災害科学 J.JSND, 15-1, 1996	
1854	12.24	安政元	11.05				
記 載 内 容				現 地 調 査 結 果			
地 名	①満倉坪浜2904 ②満倉西組2407			位置座標	①132° 36' 30.01" ②132° 36' 34.14"		
津波高 記載の有無	(有)・無				①32° 56' 49.95" ②32° 57' 08.91"		
津波高 (尺寸)				地盤高 (m)	①1.90 ②4.00		
m換算	①3~4 (平岩) ②2~3 (石塚, 村上ら)			その他			
文 献 抜 粋				現 地 写 真			
<p>[平岩陽子：歴史資料に基づく四国沿岸域における津波浸水高の評価に関する研究，修士論文，1994，付表]より転載 岩水：A3~4m[但し，津波高に関する記述文はなし] (参考資料：1993年に徳島大学(村上研究室)で取りまとめられている満倉での安政津波の津波高に関する資料を，以下に示す。 ・浜辺では屋根より上に潮上る。⇒よりA3~4m)</p>							
<p>[石塚淳一：四国における津波の実態把握とその氾濫解析に関する研究，修士論文，1995，pp73]より転載 城辺，一本松：外海浦の内・深浦・岩水・平城村貝塚・満倉などに流家あり，和口村の出合まで汐流る。満倉では浜辺の家の屋根まで潮が来る。 →和口川河口の水面高さ2.5m，満倉坪浜の地盤高1.5mで屋根までより3m。 ⇒A2~3m</p>							
<p>[村上仁士・島田富美雄・伊藤禎彦・山本尚明・石塚淳一：四国における歴史津波(1605慶長・1707宝永・1854安政)の津波高の再検討，自然災害科学 J.JSND, 15-1, 1996, pp.43]より転載 表1. 四国沿岸での歴史津波の津波高(1946の項はM.S.L., 他はT.P.基準, 単位:m) 満倉(1854): 2~3[但し，津波高に関する記述文はなし]</p>							
備 考							
位置座標①：痕跡地として“満倉橋東岸の集落(坪浜)”を位置設定し，Web-GISで検索。							
// ②：痕跡地として“新満倉橋西岸の堤防(西組)”を位置設定し，Web-GISで検索。							

現地状況写真



属性番号 A-2

位 置 愛南町満倉坪浜 2 9 0 4

写真番号 1

記 事 :

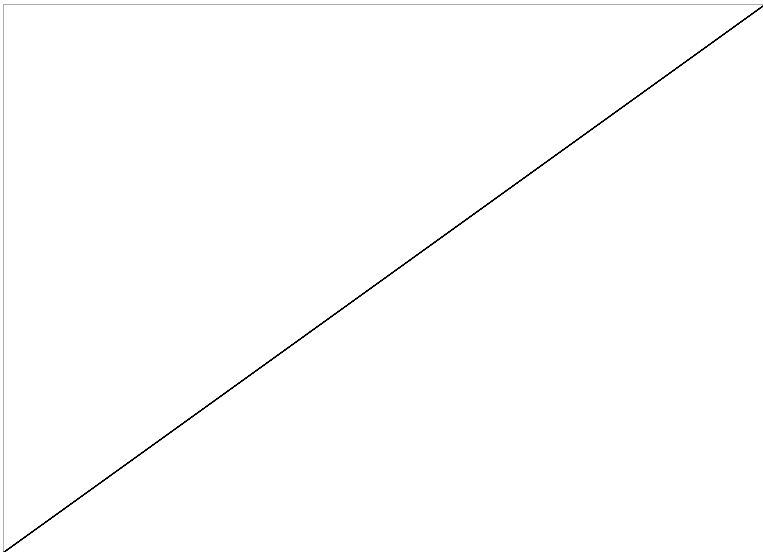


属性番号 A-2

位 置 愛南町満倉西組 2 4 0 7

写真番号 2

記 事 :



属性番号 _____

位 置 _____

写真番号 _____

記 事 :
